

## 第4章 医師・歯科医師・薬剤師調査

### 1 医師

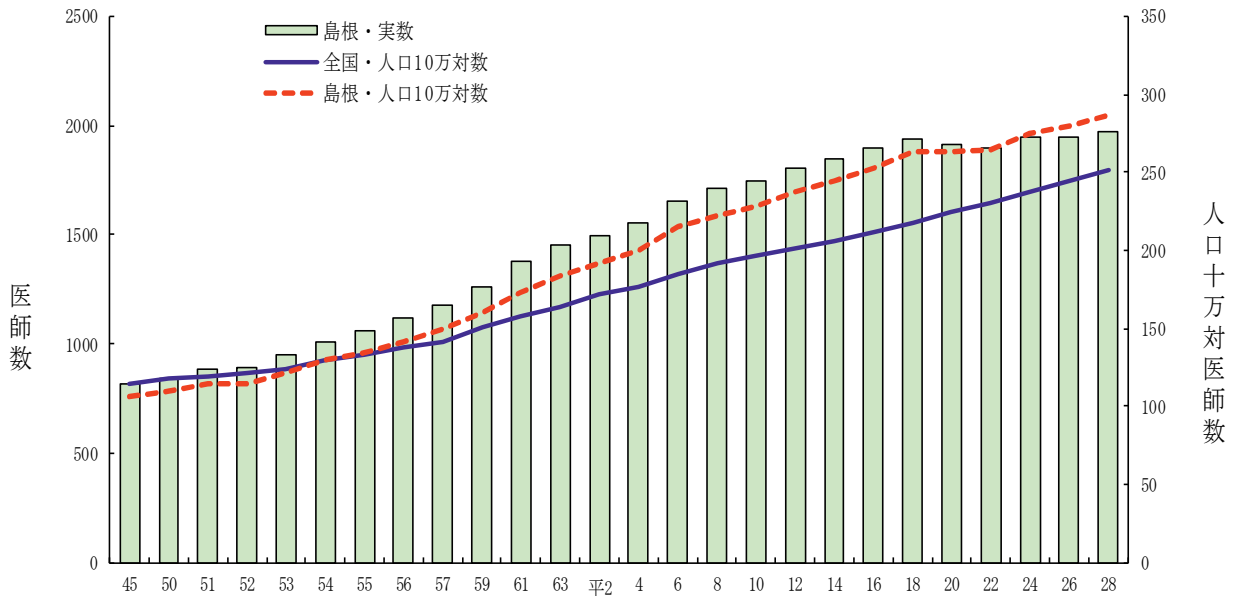
平成28年末現在の医師の届出数は1,975人で、前回調査時の平成26年から28人増加した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は1,879人で総数の95.1%を占め、前回に比べ31人増加し、構成割合も0.2%上昇した。介護老人保健施設の従事者は32人で前回と比べ3人増、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は57人で前回に比べ1人増、その他の者は7人で前回に比べ7人減であった（表4-1）。

表4-1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成28年	平成26年		平成28年	平成26年
総 数	1,975	1,947	28	100.0	100.0
医療施設の従事者	1,879	1,848	31	95.1	94.9
病院の従事者	1,245	1,216	29	63.0	62.5
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	29	30	△ 1	1.5	1.5
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	845	851	△ 6	42.8	43.7
医育機関附属の病院の勤務者	371	335	36	18.8	17.2
臨床系の教官又は教員	207	192	15	10.5	9.9
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	164	143	21	8.3	7.3
診療所の従事者	634	632	2	32.1	32.5
診療所の開設者又は法人の代表者	457	452	5	23.1	23.2
診療所の勤務者	177	180	△ 3	9.0	9.2
介護老人保健施設の従事者	32	29	3	1.6	1.5
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	6	7	△ 1	0.3	0.4
介護老人保健施設の勤務者	26	22	4	1.3	1.1
医療施設・老人保健施設以外の従事者	57	56	1	2.9	2.9
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	22	30	△ 8	1.1	1.5
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	5	5	0	0.3	0.3
行政機関又は保健衛生施設の従事者	30	21	9	1.5	1.1
行政機関の従事者	19	18	1	1.0	0.9
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	10	3	7	0.5	0.2
産業医	1	-	1	0.1	-
その他の者	7	14	△ 7	0.4	0.7
その他の業務の従事者	-	2	△ 2	-	0.1
無職の者	7	12	△ 5	0.4	0.6
不 詳	-	-	-	-	-

平成28年の人口10万対医師数は286.2人で、前回の279.3人に比べて6.9人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移している（図4-1）。

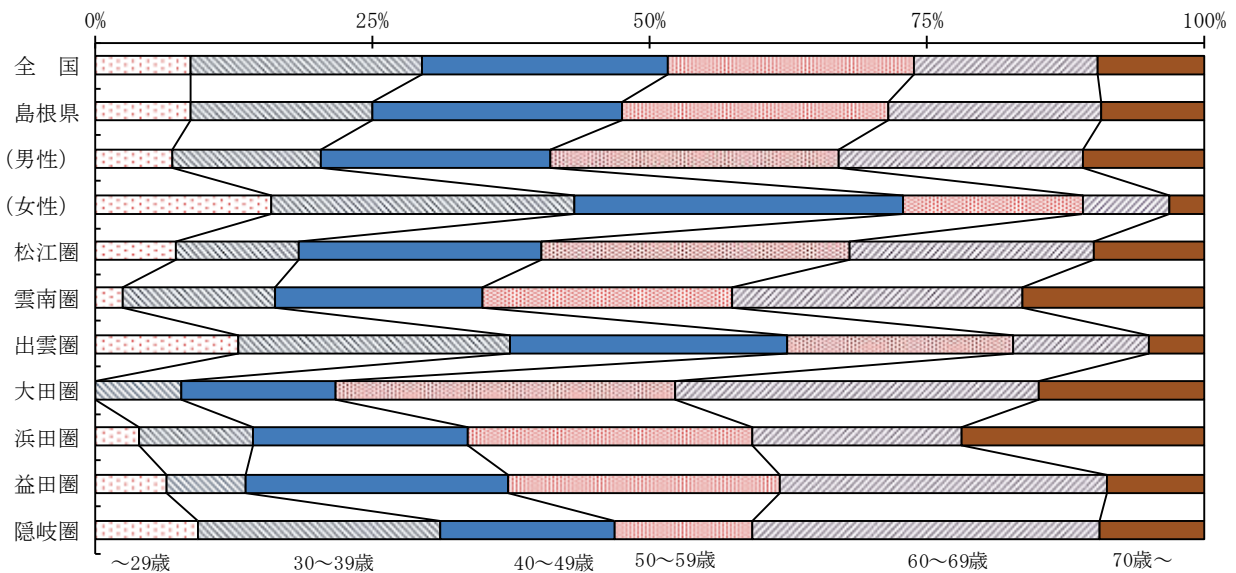
図 4-1 医師数及び人口 10 万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では 50 歳代が 24.0%、40 歳代が 22.5%と半数近くを占めている。全国の割合と比べると、30 歳代と 70 歳以上の割合が低くなっている。男女別に見ると、男性は 50 歳代が最も多く 25.9%で、ついで 60 歳代が 22.0%を占める。女性は 40 歳代が最も多く 29.6%で、ついで 30 歳代が 27.3%を占める。

2次医療圏別に見ると、出雲圏だけが 20 歳代の占める割合が 13.1%と 1 割を超えている。大田圏では 50 歳以上が 78.2%を占める (図 4-2)。

図 4-2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を 10 年ごとにみると、昭和 50 年は 45~49 歳、昭和 61 年は 25~29 歳、平成 8 年は 30~34 歳、平成 18 年は 45~49 歳が最も多い年齢階級となっている。平成 28 年をみると最も多い年齢階級は 55~59 歳となっている (図 4-3)。

図 4-3 医師の年齢構成の年次推移

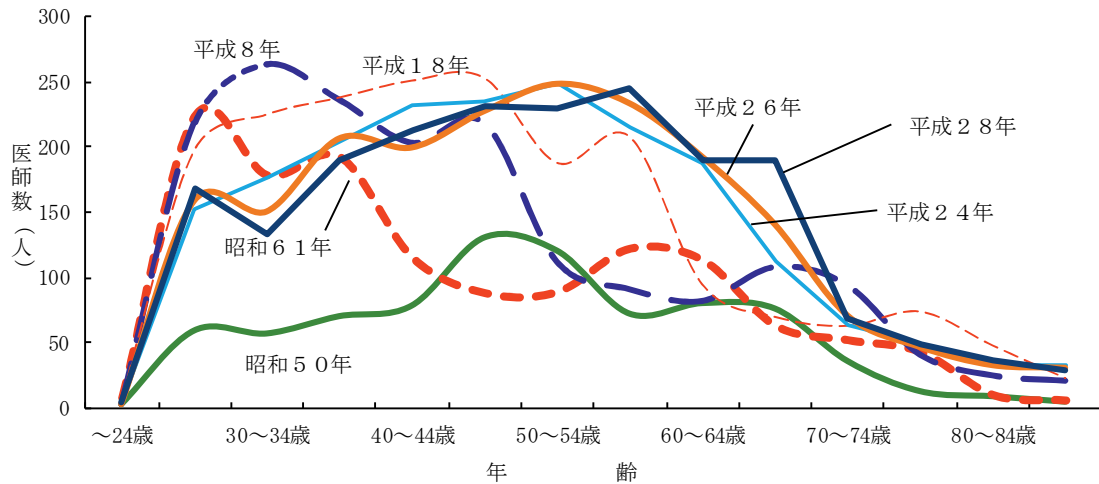


表 4-2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く430人で22.9%を占める。ついで整形外科が124人で6.6%、精神科が117人で6.2%、小児科が100人で5.3%を占める。平成26年と比較すると内科や消化器外科(胃腸外科)が増加した。一方、最も減少したのは外科で17人減、次いで小児科と整形外科の9人減となっている(表4-2)。

	平成28年		平成26年		増減数(人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医師数	1,879	100.0	1,848	100.0	31
内科	430	22.9	415	22.5	15
呼吸器内科	34	1.8	35	1.9	△1
循環器内科	65	3.5	66	3.6	△1
消化器内科(胃腸内科)	98	5.2	97	5.2	1
腎臓内科	18	1.0	15	0.8	3
神経内科	49	2.6	45	2.4	4
糖尿病内科(代謝内科)	27	1.4	31	1.7	△4
血液内科	23	1.2	20	1.1	3
皮膚科	51	2.7	47	2.5	4
アレルギー科	-	-	-	-	-
リウマチ科	8	0.4	6	0.3	2
感染症内科	2	0.1	1	0.1	1
小児科	100	5.3	109	5.9	△9
精神科	117	6.2	106	5.7	11
心療内科	1	0.1	2	0.1	△1
外科	64	3.4	81	4.4	△17
呼吸器外科	14	0.7	14	0.8	0
心臓血管外科	19	1.0	18	1.0	1
乳腺外科	14	0.7	12	0.6	2
気管食道外科	-	-	-	-	-
消化器外科(胃腸外科)	27	1.4	13	0.7	14
泌尿器科	47	2.5	43	2.3	4
肛門外科	-	-	-	-	-
脳神経外科	37	2.0	35	1.9	2
整形外科	124	6.6	133	7.2	△9
形成外科	12	0.6	12	0.6	0
美容外科	1	0.1	2	0.1	△1
眼科	68	3.6	66	3.6	2
耳鼻いんこう科	47	2.5	44	2.4	3
小児外科	5	0.3	6	0.3	△1
産婦人科	65	3.5	67	3.6	△2
産科	-	-	-	-	-
婦人科	6	0.3	8	0.4	△2
リハビリテーション科	23	1.2	22	1.2	1
放射線科	46	2.4	42	2.3	4
麻酔科	73	3.9	64	3.5	9
病理診断科	11	0.6	9	0.5	2
臨床検査科	4	0.2	3	0.2	1
救急科	16	0.9	13	0.7	3
臨床研修医科	95	5.1	96	5.2	△1
その他	29	1.5	47	2.5	△18
不詳	7	0.4	2	0.1	5

## 2 歯科医師

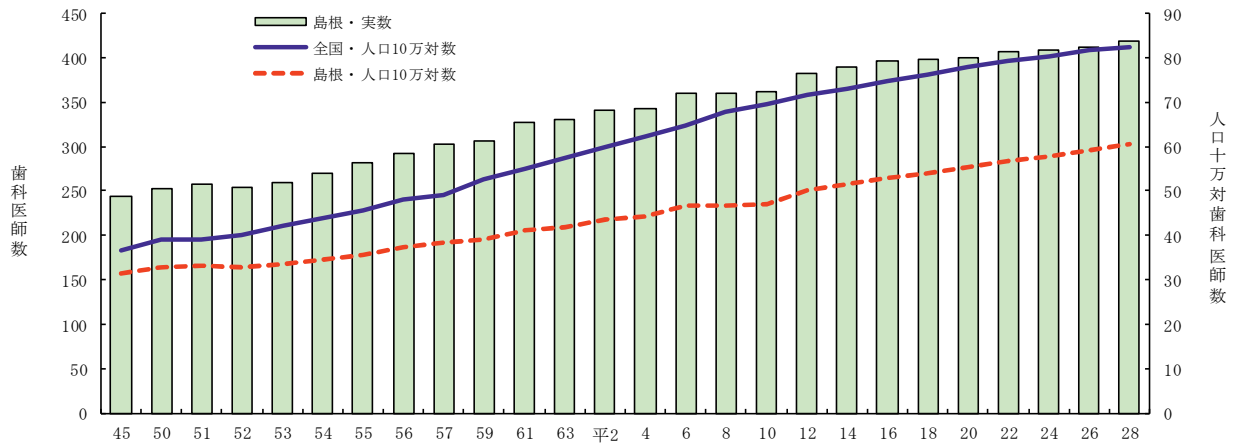
平成 28 年末現在の届出歯科医師数は 419 人で、前回調査時の平成 26 年から 7 人増加した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で 95.2%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が 60.1%で、診療所の勤務者が 26.3%である。平成 26 年と比べると、病院の従事者は 4 人増加（構成割合は 0.8%上昇）、診療所の従事者は 1 人減少（構成割合は 1.7%降下）した（表 4-3）。

表 4-3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成28年	平成26年		平成28年	平成26年
総 数	419	412	7	100.0	100.0
医療施設の従事者	399	396	3	95.2	96.1
病院の従事者	37	33	4	8.8	8.0
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	27	23	4	6.4	5.6
医育機関附属の病院の勤務者	10	10	0	2.4	2.4
臨床系の教官又は教員	4	4	0	1.0	1.0
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	6	6	0	1.4	1.5
診療所の従事者	362	363	△ 1	86.4	88.1
診療所の開設者又は法人の代表者	252	253	△ 1	60.1	61.4
診療所の勤務者	110	110	0	26.3	26.7
老人保健施設の従事者	-	-	-	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	5	3	2	1.2	0.7
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	1	1	0	0.2	0.2
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	2	-	2	0.5	-
行政機関又は保健衛生施設の従事者	2	2	0	0.5	0.5
行政機関の従事者	2	2	0	0.5	0.5
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	-	-	-	-	-
その他の者	15	13	2	3.6	3.2
その他の業務の従事者	4	-	4	1.0	-
無職の者	11	13	△ 2	2.6	3.2
不詳	-	-	-	-	-

平成 28 年の人口 10 万対歯科医師数は 60.7 人で平成 26 年の 59.1 人に比べて 1.6 人増加した。年次推移をみると、緩やかな増加傾向にあるものの、全国平均に比べてかなり低くなっており、平成 28 年は全都道府県中第 43 位であった（図 4-4）。

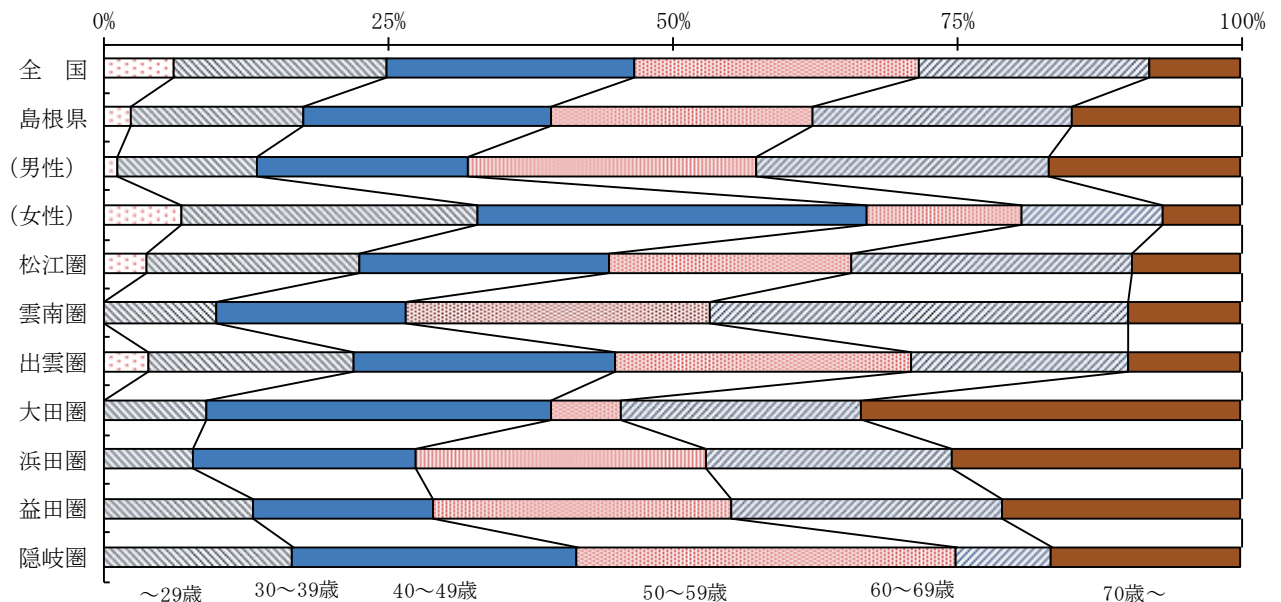
図 4-4 歯科医師数及び人口 10 万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて 20 歳～50 歳代の占める割合が低く、60 歳以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は 20 歳～40 歳代が 67.0% を占めており、男性は 50 歳以上が 68.0% を占めている。

2 次医療圏別にみると、雲南圏、大田圏、浜田圏、益田圏では 60 歳以上が 4 割を超えている。(図 4-5)。

図 4-5 歯科医師の年齢別割合



### 3 薬剤師

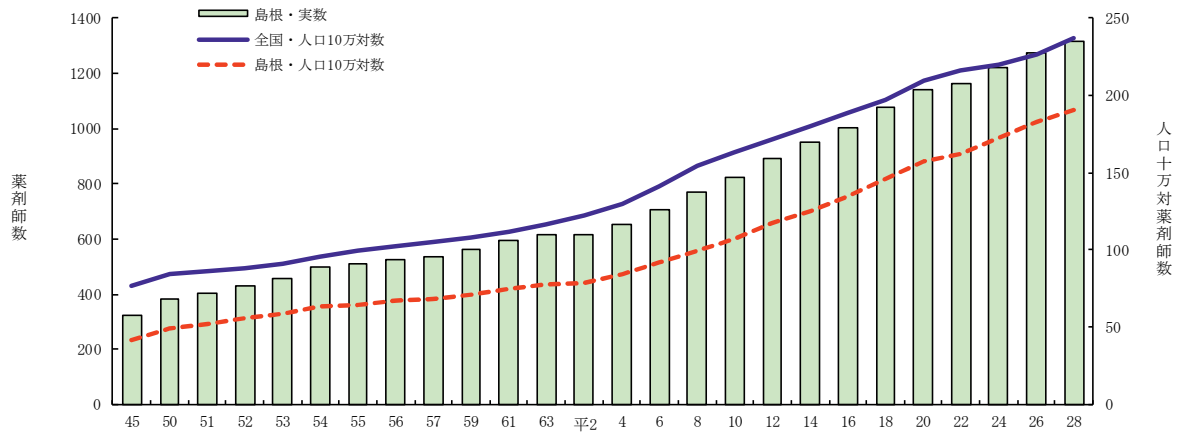
平成 28 年末現在の届出薬剤師数は 1,316 人であり、平成 26 年から 41 人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者が 794 人（構成割合は 60.3%）で、平成 26 年から 25 人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が 325 人（構成割合は 24.7%）となっており、平成 26 年から 7 人増加している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の 85.0%を占めた（表 4-4）。

表 4-4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成28年	平成26年		平成28年	平成26年
総 数	1,316	1,275	41	100.0	100.0
薬局の従事者	794	769	25	60.3	60.3
薬局の開設者又は法人の代表者	110	111	△ 1	8.4	8.7
薬局の勤務者	684	658	26	52.0	51.6
病院・診療所の従事者	325	318	7	24.7	24.9
病院・診療所で調剤・病棟業務に従事する者	312	309	3	23.7	24.2
病院・診療所でその他の業務に従事する者	13	9	4	1.0	0.7
大学の従事者	9	10	△ 1	0.7	0.8
大学の勤務者（研究・教育）	9	10	△ 1	0.7	0.8
大学院生又は研究生	-	-	-	-	-
医薬品関係企業の従事者	83	87	△ 4	6.3	6.8
医薬品製造業・輸入販売業（研究・開発・その他	29	29	0	2.2	2.3
医薬品販売業（旧薬種商を含む）に従事する者	54	58	△ 4	4.1	4.5
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	23	21	2	1.7	1.6
その他の者	82	70	12	6.2	5.5
その他の業務の従事者	26	21	5	2.0	1.6
無職の者	56	49	7	4.3	3.8
不 詳	-	-	-	-	-

平成 28 年の人口 10 万対薬剤師数は 190.7 人で、平成 26 年から 7.8 人増加した。年次推移をみると年々上昇しているが、全国平均と比べてかなり低くなっており、平成 28 年は全都道府県中第 38 位であった（図 4-6）。

図 4-6 人口 10 万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは30歳～39歳の29.4%、ついで40歳～49歳の18.7%、60歳～69歳の17.3%となっている。

2次医療圏別にみると、出雲圏は20歳～30歳代で50.5%を占めており、隠岐圏では60歳以上の占める割合が52.2%となっている（図4-7）。

図 4-7 薬剤師の年齢別割合

